

つくば日中協会ニュース

(筑波日中協会会報) 第11号

No. 11 (2007.12)

発行：つくば日中協会

事務局：〒305-0031 茨城県つくば市吾妻4-13-21 (川久保方)

Tel&Fax 029-851-4619

筑波山登山特集 (2006-2007年)

ご挨拶

当つくば日中協会の活動も設立後14年目を迎える年となりました。会員や朋友の皆様の不断のご精進と関係各位の温かいご理解・ご支援に心から感謝いたします。

中国語講座も平成19年度は5コースに分かれて開講しています。受講生の皆様の絶え間ない学習振り、講師の先生方の熱心なご指導には、敬意と謝意を表します。

さて、当ニュースも第10号発行(2003.6)から随分時間を経てしまいました。原稿を頂きながら発行が遅れましたことをお詫びいたします。

今号は昨年・今年と行いました筑波山登山についての報告を特集として纏めてみました。どうぞご一読下さい。

会 長 不破正宏

1. 2006年筑波山登山報告 (記録)

事務局長 川久保忠通

2006年10月9日、筑波大学中国留学生学友会(会長：劉学軍、国際交流部長：楊豪傑 等2名)、つくば日中協会会員(会長：不破、幹事長：王、事務局長：川久保 他14名)の計36名の参加で筑波山登山を行いました。ここに行動記録を報告いたします。

行動記録

7:30 筑波大学野球場横南駐車場に集合(1人欠席)。飲料水と食料が入った袋を参加者に一人ずつ配る。

7:45 つくば日中協会会員の7台の車と留学生学友会会長の車1台、計8台の車に分乗して出発。

8:11 筑波山神社大鳥居左斜め上の第3駐車場着。今年から設定された駐車料金(500円)を払う。留学生学友会から参加者一人一人に月餅の差し入れを受ける。留学生会員が第1回目の点呼。

8:25 出発。

8:35 筑波山神社着。

登山の無事を祈って参拝し、皆で記念写真を撮る。

8:40 登山開始。途中ケーブルカーの中間点より少し手前の広場で休憩し、ケーブルカーの中間点で登りと下りのケーブルカーが交差するのを見物した後、登山再開。

10:00 女体山と男体山の鞍部(ケーブルカー終点)に到着。結構風が強く、汗をかいた体には少々寒い。雲のほとんど無い秋晴れである。



「筑波山神社での記念写真」

- 10:10 まだ最後尾が到着しないので希望者のみ男体山に出発。
- 10:25 男体山頂上。富士山がボーッと霞んで見える。私は当初気づかなかったが教えてもらってようやく認識出来た。
- 10:45 再びケーブルカー終点に着き食事を摂る。
- 11:00 皆で記念写真を撮る。
女体山に向け出発。
- 11:20 女体山頂上。天気が良いせいか頂上はものすごい人である。岩が滑るので落ちて怪我人が出ないか心配になる程である。
- 11:30 最初のグループが出発。これだけ大勢のパーティーになると早く出発したい人、もっとゆっくりと残って頂上からの景色を堪能したい人と別れ、その時間差は20分くらいになる。ここから弁慶茶屋への道はちょっと分かりにくいので先頭から最後尾まで川久保が分岐点で誘導する。ここからの下りは傾斜が急で道が狭く、大勢の登りと下りの人で混み合い、かなりの渋滞がおきている。
- 11:56 大仏石の広場で休憩。
- 12:06 「出船入船」の場所で大休止。出発前の説明でこの地点で大休止を取るのので止まっておくようにと皆にお願いしていた。しかしながら、第2回目の点呼の際に4名の学生さん達が先行してしまい、協会会員が彼女達を探しに行ったという事が分かった。確かにこの場所は少し分かりにくく素通りする可能性が高い。
- 12:30 「弁慶の七戻り」に着く。ここは今までに何回も通っているが、何時見ても上に乗っている岩がよく落ちてこないと感心する。留学生の方々にこの名前の由来を説明し、恐る恐る通過して「弁慶茶屋」に着く。ここには昨年までは「茶屋(売店)」があったが、つくばエクスプレスが出来て登山客が増えてもこの店で飲食する客は増えなかったのか跡継ぎが無かったのかとうとう潰れてしまい、全くのサラ地になっていた。私も今までトコロテンを1回食べたただけだったが筑波山の名物店がなくなって一抹の寂しさを覚える。ここで道は「つつじヶ丘」と「筑波山神社」の二つに分かれ、我々のグループの人が「つつじヶ丘」に行ってしまうと困るので川久保が誘導する。最後尾の2者を見届けた後、急いで道を駆け下って行くと王幹事長ご一家に追いついた。小学4年生の娘さんは登りも一番早く、下りも身軽で私と一緒について来るとの事で二人でどんどん道を下る。
- 13:15 筑波山神社の近くでようやく先行した者に追いつき、学生さんも無事発見したとの事で神社の境内で待ってもらうように言って私は境内入口で皆を迎える。
- 14:00 最後尾で皆が迷子にならぬよう監視しながら歩いて来られた会長ら二人が到着したのでこれで全員無事到着。筑波山神社の境内に行くと階段入口の茶店に皆が集まって美味しい物を食べているところであった。
- 14:12 第3回目の点呼を取ってもらうと既に2名が駐車場方面に先行している様子である。集合点から先には行かないで皆を待つようにという案内役の意向は最後まで伝わらなかった。多分その内見つかるだろうと思って駐車場に向かう。驚いたことに、筑波山に登るにはもう遅いのにもまだ江戸屋方面までビッシリと車の列が出来ている。上部の駐車場が空かないので彼らは何時駐車出来て何時登れるやら分からない。下り方向も車の渋滞が出来ている。
- 14:30 駐車場着。来た時と同じ車に分乗し出発する。当初筑波大学野球場南駐車場まで行ってそこで解散する予定であったが、途中で不破会長から携帯電話に連絡があり、「筑波山神社でお土産を買おうとした人がどこかに財布を忘れてそれを探すのに手間取り出発が遅れたので流れ解散にしよう」との指示を受ける。
- 15:00 筑波大学野球場南駐車場に着き、同乗の3人を下ろして別れる。楽しい一日であった。



「ケーブルカー終点駅での記念撮影」

感想

(中国人留学生)

杨 贺

「山顶」

坐在筑波山的最顶端，吹着山风有一种说不出的轻松、惬意。从未与蓝天、白云如此亲密的接触过。树木、河流、汽车、楼房这些从前如此庞大的东西，如今却变得如此渺小，小的甚至看不清它们的轮廓。不禁在想人是不是也该如此呢？那些所谓的困难、失败、挫折打击、甚至功名利禄只不过是人生长河中极为微小的一部分，当你攀登到人生之巅时他们竟变得如此微不足道，有时自己苦苦追求、执著于其中甚至迷失自我的东西也许并非自己真的想要。

此时，耳边突然响起了周华健的：是该上山看看了……

是啊，当我们孤立无助抑或春风得意之时，千万别忘了登上自己的山顶看看……

陈少强

首先非常感谢学友会和日中友好协会组织了这次登山活动，非常开心能够参加 此次登山活动，通过 此次登山活动 不仅 欣赏到筑波山沿途美景，挑战 了自我极限，体验 了登山乐趣，同时很好的锻炼了身体和毅力。一路上中日友人亲切交流，也加强了了解，增进了友谊。此次登山的日本友人中大部分是退休的老人，他们 登山的步伐如同年轻人一样矫健，可见日本友人对 体育健身的热爱，值得中国留学生学习。以后好友这样的机会的话我们还乐意参加类似的活动。

杨豪杰

10月9日，秋高气爽，在筑波日中协会和筑波大学中国留学生协会的组织下，筑波大学的20多名中国留学生和日中协会的会员一起去爬了筑波山。前几天还是阴雨绵绵，似乎老天爷也对我们特别优待，9日给了我们一个万里晴空的好天气。

在登山的路上，大家一路精神饱满，有说有笑，还和日本的朋友们打成一片，其乐融融。有谁有困难一定会有人伸出帮助之手。中日朋友都被筑波山沿途的美景所折服，上山下山一共5个小时，但是大家似乎都意犹未尽，丝毫没感到疲劳。

下山后，大家稍作休息，正准备一起回学校。没想到有一位同学把钱包丢了，着急得不得了，有好几个同学一起帮着去找。没想到10分钟以后就分文不少把钱包找回来了。作为中国的留学生我们深深地感受到了日本人的诚实和善良，也使我们更加喜欢日本这个国家。为了中日友谊，我们愿意贡献自己微薄的力量。

希望以后还能有这样有意义的活动，我还想参加。

劉曉東

今日は登山に最高の日といっても過言ではなかろう。最近雨が降り続けて、もしかしてずっと前から楽しみにしていた登山交流活動がキャンセルされるのではないかと心配していたが、今朝はからりと晴れて本当にすがすがしい気分になった。

実はつくばにやってきて二年近く経ったが、筑波山の頂上まで一度も登ったことがなかった。ちなみに今年の8月に富士山に登って大変で大変でしょうがなかったので登山に恐怖感があった。しかしながら来年卒業する僕にとって、筑波山に登るのはきっと特別な思い出になるだろうと思っていた。この学生時代最後の秋にようやくチャンスが来て、日中友好団体の招待を受けて登山のチャンスが訪れた。

ところで今振り返ってみると、三年前私費留学生として日本に来ていろんな人に出会ったりしたが、特に印象に残る人は数え切れる程しかない。自分の社交性がないせいもあるだろうが、私費留学

生の場合は生活に精一杯なので、たくさんの人と知り合って交流する余裕がなかったこともひとつの理由である。せっかく日本に留学してきたので日本の方と友達同士のように交流を深めないと円満な留学生活とはいえないのではないかと、そして日中友好交流の架け橋になるのも私の留学目的のひとつであるので今回の登山活動は僕にとってきわめて有意義であった。

登山はやはり大変であった。僕は登山をすること自体が好きというわけではなく、頂上に立って周りの美しい景色を見るのが好きである。初めて筑波山からつくば市の景色を見下ろして驚いた。つくば市はきれいだなあと思った。田園や都市や自然が調和して共存していて、僕は二年ぐらいここに住んでいるにもかかわらずこの事に気づけなかった。

本当にわずかの時間であったが、つくば日中協会の方々からいろいろお世話になった。登山の途中、中国旅行、落語、相撲などの文化、社会などの話がたくさんあって大変楽しい交流になった。僕は来年卒業するのでこのような機会に会えるのは多くないかもしれないが、このような友好交流活動がこれからも数多く展開される事を期待している。

張 琦

筑波山は昔から関東の名山として、西の富士、東の筑波と並び称され、秀麗な山の姿は朝夕にその色を変えるところから『紫の山』・『紫峰』などと言われて来た。私はつくばに来てもう一年になるが、その間ずっと行きたかったのになかなか行けなかった。今回つくば日中協会の方々と一緒に筑波山に登ってとても楽しかった。この登山はこれからの私の人生に対して良い経験になると思う。

いろいろな険しい道を登ってやっと頂上についた！人生はこう言うもんだよ！いろいろな困難があつて一つ一つを乗り越えるんだ！これが私が筑波山に登って得た感想だった！

徐学英

毎日毎日、勉強と家事だけの生活をしているので、時々つまらないと思っていました。十月九日、日中協会の日本人の方々と一緒に筑波山に登ってきました。とても楽しかったです。やさしくて、親切な日本人が神社の文化を教えてくださいましたのおかげで、神社の文化をすこし分かるようになって、うれしかったです。年配の日本人が速く筑波山に登ったので、とても驚きました。将来の健康のために、私も今からよく運動をしようと思います。山麓に店があります。あそこに古い冷蔵庫が置いてあります。その冷蔵庫は電気を使わないそうです。大変珍しいと思います。

今まで何回も筑波山に登ったことがありますが、今回が一番面白かったと思います。機会があれば、次の活動にも参加したいです。

楊 柳

来日本之前，其实一直想过去富士山，毕竟那是日本的标志。可是语言不通，一个人无法上路，所以很遗憾。这次有这个机会去筑波山，也是让我很兴奋，因为在网上查到筑波山也有很美丽的景色和传说。抱着观看景色的目的而去，却发现这一次的收获却远在景色之外。那些精神矍铄、喜欢学中文的日本老人，他们态度又慈爱又热心，尤其是爬山的那股劲头，连我们年轻人都自叹不如。登山的时候还见到许多刚刚学步不久的小孩，居然自己也能爬到山顶，若在国内，这些小孩还是父母手里的宝、心上的肉，哪里会需要自己攀山爬坡呢？这种生活的态度，希望我能拥有……

吴胜龙

「登筑波山有感」

在筑波市日中协会和筑波大学中国留学生学友会的组织下，日本友人及筑波大学中国留学生共40余人一行前往筑波山。说实话，好久没有登山远足了。那一天的天气，天公作美，秋高气爽。一路上，大家一边友好的聊着天，一边享受身在大自然的乐趣。

“你好”“こんにちは”……而说中文，时而又讲日语。有些刚到日本的同学还讲不好，休息的时候，就拿出笔来写汉字。“噢，原来这样”“なるほど”

这样的交流，让我们增进了相互的了解。

就是这样一步一步，我们终于到达山顶。登高远望，更是让人感觉到心旷神怡。大家在山顶拍

照留念。

中国有句古话：“上山容易下山难！”我们把这就话解释给日本友人，通过自身的体会，好像也确实是那么一回事。

与日本友人的登山活动圆满结束了。一整天的活动，让我们结识了深厚的友谊，互相留了联系方式，道着“辛苦了”“お疲れ様でした”也许在这一天里，我们已经没有国界，语言的不同，因为我们的心是相通的。

在这里，衷心祝愿中日友好，长久不熄。

呉勝龍

つくば日中協会と筑波大学中国留学生学友会が共に主催して、日本の友人と筑波大学中国人留学生の約40人ほどが一緒に筑波山に登りに行ってきました。

正直にいうと僕は山登りは久しぶりです。さわやかな秋の季節になって天気はとてもよかったです。それは神様のお恵みでしょう。

山登りの途中、みんなは山を登りながら挨拶し、自然の中にいることを楽しんでいました。

「你好」「こんにちは」・・・時々中国語、時々日本語。日本に来たばかりの留学生たちは日本語がうまく話せなく、休憩の時漢字を書いたりしていました。

「噢，原来这样」「なるほど」このような交流によりお互いにもっと深く理解できるようになりました。

一步一步、やっと頂上にたどり着きました。高いところに登り、遠いところを眺めて本当にいい気持ちになっていました。みんなは頂上で写真を撮ったりしました。

中国語には「登ることより下ること」ということわざがあります。私たちはこれを日本人の方に説明し、みんなの感じも確かにそのようでした。

日本の友人との山登りが楽しく終わりました。丸一日の活動を通して私たちは深い友情を打ち立てました。連絡方法を交換したり、お互いに“辛苦了”“お疲れ様でした”を言ったりしていました。

この一日中、私たちの間に国境や言葉の違いはなく、心が通じ合っていました。

最後に、これから日中友好が益々深まる事をお祈りします。

(日本人中国語講座受講生)

柳澤光慶 (初級クラス)

牛久沼のほとりを毎日朝に夕に愛犬3匹と散歩する折々に眺める筑波山はとても印象的だ。周囲に全く山がないだけにどうしてあの山だけあそこにあるのだろうと思う。ところが常磐自動車道を千代田方面に向かうと孤高の筑波山の姿は無く程よい標高の山脈が筑波山から連なっていて全く別の景色が眼前に広がる。

週一回の中国語のレッスンを楽しみ始めて早3年になろうとしているが中国からはるばる筑波大学に勉学にきている留学生達と一緒に筑波山に登る計画があるのを知って参加することにした。車で行けるところまでは何度か行っているが自分の足でそれも頂上を極めたことなぞ富士山を除いて全くない私にとってはとても魅力的に思えた。富士山は遠くにあっては秀麗で登ってみては魅力なしが私の印象だが、そんなこともあって山登りはしたことがないままに71歳を生きてきた。

今回の登山は「つくば日中協会」の不破会長の発案で日頃は勉学に勤しみ日本人との交流が少ない留学生達のために中国語を学ぶ日本人の家でのホームパーティと合せて企画されたもの、山登りと中国の若人との触れ合いも楽しめるとあって当日は張り切って出かけた。大学の駐車場でクラス担任の楊豪傑先生と留学生二人をピックアップし集合場所に向かう。昼食にと飲み物とおにぎり等の配給を受ける。いつも感じることだが協会のきめ細かいご配慮に頭が下がる。総勢で20余名、日本人が少ないように思えたので参加して良かったと思う。林の中の登山道を登り始めてしばらくは楽だったが急に足場が岩だらけになって斜面は急になり仲間と話をするのも難儀になってきた。それでも留学生達と色々話が出来たが勉学の専攻科目が人それぞれなのに驚き、且つ受入体制が整っている大学の陣容の厚さにもびっくりした。当日は我々のほかにも登山客は多く中にはアルプスへの本格的な登山が

専門で岩場が多いここは格好のトレーニング場所、しょっちゅう来ていると言い置いて足取りも軽やかに私を抜き去って行った初老の男性もいた。それにしても足場が悪いのには閉口した。それに視界が一向に開けない。上へ上へと登っても左右は林で面白くないこと夥しい。漸く茶店のある平坦な場所にたどり着いたが、以前に何回か車で上った終点の平坦な場所とは明らかに違うことにすぐ気がついた。茶店の人に尋ねたところ、駐車場はもっと下との返事に一応納得はしたものの頂上は何処なのか、こことすればちっとも面白くも可笑しくもない。しばらくして協会の方から今から頂上を極めるとの説明があり気持ちも新たに登山開始、最後の処は登る人、降りてくる人が交錯し信号待ちの一方通行のような状態で社のある頂上に辿り着いた。そこは岩がごつごつして非常に狭いのびっくりしたが景色は360度素晴らしい眺めで感激した。この一瞬の感激が今までの苦勞を吹き飛ばすと言う登山マニアの言葉が分かるような気がした。

帰りは別ルートで下りたが行きと帰りは大違いとはこのことで頂上から三分の一ぐらいのところまでは岩ごつごつの急斜面ではあるが視界が極めて良く景色を愛でながらの下山を楽しめた。そこから先はまた林の中を歩いて筑波山神社まで無事下りることが出来たが、翌日に疲れが残ることもなかったので身体年齢はまだ若いのかなとちょっぴり自信が湧いてきた。

留学生の皆様も筑波山を自力で登るのは初めてという人もいて私同様楽しめたのではないと思う。全員下山し自然散会したこともあって若人の皆さんと充分日本語での会話を楽しむ余裕がなかったのが心残りだったが、いずれの機会に再会した折には中国語での会話を楽しむことにしよう。

最後になりましたが実行に当たられた不破会長はじめ協会の皆様に心から御礼申し上げると共に留学生の皆さんにとって日本での生活が良き思い出となって残るよう多方面の人達との交流の場をこれからもお創り頂ければと思っている。

2. 2007年筑波山登山報告（記録）

事務局長 川久保忠通

2007年9月29日、筑波大学中国留学生学友会（会長：劉学軍、副会長：楊豪傑）の会員13名、つくば日中協会会員14名の計27名の参加で筑波山登山を行いました。当日はあいにくの空模様で、集合場所に参集したものの、無念のリタイアを決断された方もいらして、つくば日中協会会員は9名参加、結果、計22名での登山となりました。ここに記録を報告いたします。

行動記録

7:30 南駐車場に全員集合。昨夜の天気予報では「夜晴れ、9/29は曇り時々晴れ」の筈であったが、実際の天気は昨夕からの雨が今朝もシトシトと降り続き、今朝の天気予報では「午前中は小雨、午後から曇り」と変わっていた。何となく詐欺にあったような気持ちである。役員間で話し合った結果、「筑波山登山をするグループと水戸の偕楽園（但し入館料は各自で負担してもらう）に行くグループの2グループに分かれ、留学生の希望を聞こう」という事になった。私の予想では「筑波山登山を希望する学生はせいぜい2、3名であろうから私の車で連れて行き、他の役員の方々は偕楽園に行ってもらおう」と思っていたら、何と学生全員が筑波山登山を希望した。素晴らしい若者達！20歳台の若者達に発奮させられて50歳から60歳台の役員の方々も一緒に筑波山に登る事になった。

8:00 つくば日中協会の関係者の7台の車に分乗し出発する。

8:40 筑波山の大鳥居の手前を左折して50mほど登った第3駐車場に駐車する。従来は無料であったがつくばエクスプレスの開業以来500円の駐車料金を取られるようになった。こんな早朝で雨の中でも登山する「もの好き」がいるようで、2、3台の車が止まっていた。雨具を持っていない学生がいるので第3駐車場まで来られたけれど雨の為に参加されないつくば日中協会会員が彼等に携帯傘やジャンパーを貸して下さった。

9:00 筑波山神社で記念撮影をして登り始めた。小降りながらまだ雨は降っている。

9:30 ケーブルカーの線路に沿って登り、ケーブルカーがすれ違う中間点に来た。ちょっと休憩して

出発しようとしたら線路上のケーブルカーを引っ張るケーブルが動き出し電車が来る模様なので休憩を延長してケーブルカーのすれ違いを見る。その内、迷子が出ないように我々の最後を歩いてもらっているつくば日中協会役員も到着。先頭と最後尾の2者は時々トランシーバーで交信してグループ全体の様子を確認しながら歩いた。このように大勢のグループでの登山ではトランシーバーは必需品だと思う。全員が到着したので再び登り出す。

- 10:10 御幸ヶ原着。風が強く寒いのでケーブルカー頂上駅の構内に入って休憩させてもらおう。悪天の為ケーブルカーを利用して登って来るお客も少ないので我々だけでゆっくり場所を占拠する。つくば日中協会が各人に用意したおむすび(3個)、飲料(2本)、お菓子セットを食べる。
- 10:35 最後に不破会長到着。小雨の降る悪コンディションの中で皆さん良く頑張った。
- 10:52 まだ小雨が降り、視界10mくらいの濃いガスがかかっているのも男体山に登るのを諦め直接女体山に行く事にする。ガマ石の所で口に石を投げ込もうと努力する学生がいて少し時間を取られる。
- 11:05 女体山頂上着。晴れたら広々とした関東平野はもちろん、霞ヶ浦、太平洋、富士山が見えるのだが今日はガスで殆ど何も見えない。しかし山の頂上はどんな天気でも気分が良いものだ。滑りやすい頂上の岩に立ち写真を撮り合う。
- 11:15 出発。弁慶の七戻り経由で筑波山神社に下りる事にする。頂上直下の滑りやすい岩を注意しながら下りる。
- 11:58 弁慶茶屋跡着。2年程前まではここに茶屋があり、茶屋の前の休憩所に腰を下ろすと茶屋のオジサンが出てきて「何も買わない者は使ってはダメ!」と文句を言うようなケチな雰囲気のお店であったが、完全に更地となり跡陰もなくなると筑波山の名物がひとつ無くなったようで寂しい気がする。完全に雨が上がった。しばらく休んで出発。王さんと一緒に早足であるく。
- 12:40 弁慶茶屋で皆が休んでいる時も休まずコツコツと歩いていったつくば日中協会会員1名によく追いつく。
- 13:20 全員筑波山神社に到着した。
- 13:44 駐車場着。スタート時は雨が降っていて役員の方々が完登出来るか心配であったが、全員怪我もなく無事に歩いて頂けた。ロープウェイで下りた不破会長と合流し、この場所でつくば日中協会会長の締めめの挨拶があり、公式にはこれで解散となり、車に分乗して帰る。
- 14:00 筑波大学南駐車場着。無事筑波山登山が終了した。

感想

(中国人留学生) *

雨中登筑波山

9月29日上午, 应筑波日中协会的邀请, 筑波大学14位中国留学生, 在杨豪杰副会长的带领下, 与14位日本友人一同攀登了关东“小富士”——筑波山。

“独在异乡为异客, 每逢佳节倍思亲”, 当心中的思念之情还未消去时, 我们又迎来了祖国母亲五十八岁的生日。亲切友好的日本朋友, 体恤到我们心中的苦涩与欢喜, 在秋天脚步悄悄走近的时候, 与我们携手走进大自然。可是天公不作美, 前一天还是艳阳高照, 29日却下起了绵绵的秋雨。秋风瑟瑟, 让人感到天气的寒冷, 但这一切都丝毫没有打消我们登山的兴致。在日中协会会长不破先生和其他的日本友人们正因是否正常进行“雨天登山活动”为难时, 我们14位留学生都一致支持登山的原定计划。于是, 我们开始了别具一格的雨中登山。

突如其来的天气, 让大家显得措手不及, 有的同学没有带雨伞, 有的同学没有准备防寒的衣服。这时候, 日本朋友们, 主动拿出他们的雨伞雨衣, 为我们解决了燃眉之急, 而且还细心周到地为我们准备了饭团, 饮料等食品。

从前夜开始的秋雨, 此时下得更紧了。在雨水的冲刷中, 道路更加泥泞, 山路又陡又滑, 让人有些害

怕。但还是没有一个人选择坐缆车，大家都说要亲自爬到山顶，欲览雨中的筑波。上山的时候，大家都互相提醒：路滑，小心！在十分艰险的路段，我们相互鼓励着，搀扶着。我们谈着日本与中国，伴着雨水和汗水，伴着欢声笑语，我们终于登上了海拔876米高的筑波山顶。从山顶向下看，雨中的筑波，云雾缭绕，葱绿的松树若隐若现，宛如被轻纱笼罩着婀娜身姿的少女。大家无不为此美丽的景色而感动。

我们稍事休息，准备下山。虽然有几位同学略显体力不支，但是他们还是坚持选择了和同伴们一起走完下山的路。日本朋友川久保先生，沿途为我们介绍了筑波山相关的故事、传说，如“弁庆七回转”、“出船入船”等等。我们一路欣赏着雨后的山中美景，享受着登山的喜悦。下午三点，我们返回到山脚下出发的地方。

当大家还都意犹未尽时，分手的时刻却悄悄的到来了。会长不破先生和杨豪杰副会长，对这次登山活动作了总结。虽然有些依依不舍，但我们笑着与日本友人挥手告别。相聚的时间是短暂的，但是中日两国朋友在旅途中结下的友谊却是永恒的。（通讯员：彭玉全/李晶）

（*注：学友会の投稿記事を引用させていただきました。）

筑波山登山の感想文を受け付けています。事務局までどうぞ。

3. その他

3. 1 平成19年度中国語講座紹介

今年度の講座は、以下の5コースで、平成19年4月～平成20年3月の各43回です。

「入門」「初級」「応用」「基礎会話」「中級会話」

3. 2 ホームパーティー参加者感想文 受付中

3. 3 年忘れ日中交歓会 12月22日（土）に「老人福祉センターとよさと」で開催予定

『原稿募集中』

次号はホームパーティー特集を予定しています。

会員の皆様には是非ともニュースへの投稿をお願い致します。中国語講座受講の感想など、他の事でも大歓迎です。

<<入 会 案 内>>

つくば日中協会に入会ご希望の方は、事務局に会員登録票を請求し、記入の上、年会費と共にご提出下さい。

会費：一般：3000円、学生：1500円

賛助会員・団体会員：一口10,000円

つくば日中協会ホームページアドレス：

<http://www.geocities.co.jp/WallStreet/1702/>

（更新予定中）